

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 9 月 18 日

【評価実施概要】

事業所番号	4090800048		
法人名	有限会社 ごんどう		
事業所名	グループホーム 菜の花		
所在地	福岡市東区和白東4丁目6-26 〒811-0214 (電話) 092-405-0555		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成21年9月14日	評価確定日	平成21年10月23日

【情報提供票より】(平成 21 年 8 月 29 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 19 年 11 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 13 人	非常勤 7 人 常勤換算 14.2 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2 階建ての ~ 1~2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	54,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円	
敷金	有(54,000 円)	無		
保証金の有無(一時金を含む)	有(円)	有の場合償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日あたり 1,300 円程度			

(4) 利用者の概要(8 月 29 日現在)

登録人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護 1	3 名	要介護 2	4 名		
要介護 3	3 名	要介護 4	6 名		
要介護 5	2 名				
要支援 1	名	要支援 2	名		
年齢	平均 84.1 歳	最低	65 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	輝栄会病院、くわの歯科
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

マンションや個人住宅の立ち並ぶ住宅街にあり、近くには工業系の大学や高等学校があり、住環境に恵まれた場所に立地している。この地で幅広く事業を展開する法人オーナーが、地域貢献への思いをもって開設したグループホームである。利用者はもともと近隣地域にお住まいの方が多く、馴染みの地域の中にあつて、今までの生活の継続性の支援として、近隣の商店の利用や子供会との交流、地域住民との会話など、普段着でのお付き合いが行われている。ホーム協力医以外に、今までのかかりつけ医の往診による利用者の状態や体調の把握は、ホーム職員の心強い支えとなっている。今後、質の向上へ向けた様々な取組みが期待できるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 今回が初めての外部評価の受審である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の受審にあたり、会議にて外部評価の意義についての説明を行うなど外部評価の理解を図っている。自己評価は、管理者と計画作成担当者によって作成されている。
	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 民生委員、自治会長、地域包括支援センター職員、行政担当職員、家族などの関係者が集って2ヶ月毎に開催している。ホームからの報告の他に、行政からのアドバイスや地区の独居高齢者の情報を頂いたり、家族から利用者の変化や悩み等について意見がでるなど、活発な意見交換の場となっている。また、全家族へ運営推進会議の議事録等の送付が行われている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9) 家族面会時の声かけ、その都度の電話連絡、状況に応じた家庭訪問、運営推進会議議事録等の送付を通じて、様々な報告と家族の意見や思いの表出に努めている。出された意見等は、運営推進会議やホーム会議等で協議するなどの取組みがある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 近隣の商店の利用や子供会との交流、地域住民との会話など、普段着でのお付き合いが行われている。法人代表は、この地に以前から事業を展開しており、利用者も近隣地域出身の方が多いため、違和感無く地域の中へ溶け込んでいる。

2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	開設当初より、地域を意識した理念を作成し ており、住み慣れた地域のなかでの生活を意識 した内容となっているため、変更は行っていな い。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	玄関ホールや事務所に理念が掲示されてお り、自然と目につく工夫がある。常に理念を意 識したケアへの取り組みが行われている。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	近隣の商店の利用や子供会との交流、地域住 民との会話など、普段着でのお付き合いが行わ れている。法人代表は、この地に以前から事業 を展開しており、利用者も近隣地域出身の方が 多く、違和感無く地域の中へ溶け込んでいる。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	今回が初めての外部評価の受審である。今回 の受審にあたり、会議にて外部評価の意義につ いての説明を行っているも、自己評価は、管理 者と計画作成担当者による取り組みであり、他の 職員がかかわっての自己評価への取り組みは行わ れていない。		自己評価に職員全員で取り組むことで、職 員個々の意識付けや気づきが生まれます。ま た、それらについて全職員で話し合うこと で、さらなる質の向上に繋がるものと思われ ます。今後の取り組みを期待します。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	関係者が集って2ヶ月毎に開催している。ホームからの報告の他に、行政からのアドバイスや地区の独居高齢者の情報を頂いたり、家族から利用者の変化や悩み等について意見がでるなど、活発な意見交換の場となっている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所が抱える問題やその時々状況に応じた相談など、行政担当職員、地域包括支援センター職員との密なかかわりがある。運営推進会議への参加以外にも、地域包括支援センター職員がホームに立ち寄るなど、連携が図られている。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員の勉強会への参加や家族への働きかけなどはなされておらず、今後の課題である。		運営推進会議等を利用した、行政担当職員や専門家等による講話を通じて、定期的な情報提供の機会を設け、広く情報を発信し、制度の正しい理解と周知に努め、必要な時に確実に利用できるような支援を期待します。
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族面会時の声かけ、その都度の電話連絡、状況に応じた家庭訪問等において説明が行われている。また、運営推進会議議事録等の送付を通じて、様々な報告が行われている。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時の声かけ、その都度の電話連絡、状況に応じた家庭訪問、運営推進会議議事録等の送付を通じて、家族の意見や思いの表出に努めている。出された意見等は、運営推進会議やホーム会議等で協議するなどの取り組みがある。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の入れ替わりが多く、利用者・家族との馴染みの関係の継続には至っていない。		7月の管理者等の交代に伴い、体制を一新され、落ち着きが見られ始めたようです。現在検討されている就業環境等の整備に着手され、職員同士がお互いを認め合い、生き生きと仕事ができる環境整備と、利用者・家族との馴染みの関係の維持・継続への取り組みに期待します。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用に関して、何ら制限は設けられていない。社会人としての常識を持ち、人の話をよく聞くことができるなど、人格を尊重しての採用である。働きながら各種資格取得に向けての支援が行われている。		
12	20 追加	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部で行われる研修会やホーム内部での勉強会への働きかけ、各地区で行われる講話等への参加への取り組みは、今後の課題である。		職員の基本的資質でもある人権意識の喚起のために、行政等で行われる講話への参加や新聞記事などを活用してのホーム勉強会の取り組みなど、さまざまな機会を利用した積極的な取り組みを期待します。
13 (10)	21 (19)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部で行われる研修会やホーム内部での勉強会への働きかけ、各地区で行われる講話等への参加への取り組みは、今後の課題である。		全ての職員が安心して働きながら学び、成長していくことができるような支援として、職員の経験や習熟度に応じた計画的な各種研修機会の確保等、事業所内・外の場を利用した教育体制の確立と実施に向けた取り組みを期待します。
14 (11)	22 (20)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業他事業所等との連携や相互訪問、交流などへの取り組みは、今後の課題である。		同業他事業所等との連携に努められ、他の事業所との職員間の交流や情報交換を通じて、職員一人ひとりの気づきやモチベーションを上げる機会となるような取り組みを期待します。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験利用や管理者との面談等を通じて、顔馴染みの関係の構築に努めている。入居後は、頻繁な家族の面会を促し、本人・家族との関係性の維持の支援に努めるなど、利用者の精神面に配慮した取組みがある。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が、その時々職員の様子から、さりげなく席を離れ通路を確保したり、職員が利用者へねぎらいの言葉をかけるなど、お互いが気づかっている様子が伺えた。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりを通じて利用者の思いや意向を把握し、把握した情報は、センター方式の様式やカンファレンスシートへ記入し、カンファレンス時の情報共有と検討が行われている。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	日々のかかわりを通じて利用者の思いや意向を把握し、面会時やその都度の電話連絡、家庭訪問等を通じて家族の希望や思いを把握し、介護計画の作成がある。		7月の管理者等の交代に伴い、チームケアの観点にたった情報の共有として、月に1度のカンファレンスが開催され始めたばかりです。今後、継続的なカンファレンスの開催と職員も含めた担当者会議の開催を経て、介護計画の作成への取組みを期待します。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要な 関係者と話し合い、現状に即した新たな 計画を作成している	7月の管理者等の交代に伴い、チームケアの 観点にたった情報の共有として、月に1度のカ ンファレンスが開催され始めたばかりである。		継続的なカンファレンスを通じて、全職員 の気づきや利用者の現状の把握、職員間の確 実な情報交換と共有が充実したものとなるよ うに取り組まれることを期待します。
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に 応じて、事業所の多機能性を活かした柔 軟な支援をしている	利用者の状況に応じた家庭訪問、日常的な近 隣商店の利用、今までのかかりつけ医の往診受 入れなど、利用者の希望に沿った対応がある。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関 係を築きながら、適切な医療を受けられ るように支援している	契約時に説明し、利用者・家族が、入居後の 主治医を選択している。今までのかかりつけ医 への受診は家族対応であるが、ホーム協力医以 外に今までのかかりつけ医の往診も行われてい る。また、専門診療科との連携を図るなど、適 切な医療受診への支援がある。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、できるだけ早い段階から本人や家 族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有している	重度化及び看取りに関する指針を作成し、同 意書及び意向確認書を契約時に得ている。利用 者本人の意向の確認は、センター方式を通じて の働きかけが行われている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	利用者と視線を合わせたの丁寧な声かけ、耳 元での声かけ、利用者の反応の良い呼称を用い るなど、利用者を尊重した対応が見受けられ た。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	事業所としての基本的な流れはあるものの、 食事や入浴のタイミング、かかる時間、日中の 過ごし方など、利用者の希望やペースを尊重し た対応が見受けられた。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	メニューは利用者の希望を基に作成されてお り、配膳、下膳など、利用者と職員が協力しな がら行われている。職員は利用者と同じテー ブルを囲み、利用者にながらいの言葉かけが行 われるなど、和やかな雰囲気での食事風景であ った。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミ ングに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	お昼前及び午後から夕方の時間帯で、1週間 に3回以上の入浴を目標に、希望に応じた入浴 支援を行っている。利用者毎にお湯を入れ替 え、希望があれば好みのシャンプー等を使用す るなど、入浴を楽しめるような支援がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	日々の散歩や買物への付き添い、配膳・下膳 の手伝い、洗濯物たたみなど、利用者の出来る 事や出来そうな事を把握しての支援がある。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	日々の散歩や買物への付き添い、戸外のベン チに座っての気分転換など、日常の中で、戸外 に出ることを意識した取り組みがある。		利用者の状況によって、戸外に出ることが 難しいと思われる利用者に対しても、困難と 諦めずに、利用者の希望に応じて個別支援と しての外出への取り組みや、計画されている季 節毎の外出へ取組まれるなど、更なる外出支 援への取り組みを期待します。
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	日中は常に開錠している。きめ細かい利用者 の観察と所在確認により外出傾向の把握を行 い、声かけを行ったり、一緒に外出するなど、 利用者の自由と安全に配慮した支援がある。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身に つけ、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	消防署の立会いのもと、年2回の避難訓練の 実施がある。訓練時には、地域の方に誘導及び 見守りをお願いするなど、緊急時の地域との連 携・協力体制が図られている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	メニューは利用者の希望をもとに、旬の食材 を使用し、見た目や色合いを意識しながら作成 している。利用者毎の食事摂取量及び水分摂取 量を把握し、状況に応じてトロミをつけるなど の支援がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の壁や床は淡い茶系で統一されてお り、リビングは自然光を取り入れ、柔らかな光 に包まれ、快適な空間となっていた。食事中は テレビを消し、BGMを流しており、音量も丁度 良く、ゆったりとした時間が流れていた。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	各居室には、テーブルと椅子、テレビ、写 真、整理箱、畳シートなどが持ち込まれ、くつ ろげる雰囲気となるような居室づくりがなされ ていた。		

は、重点項目。
(数字)は、国の標準例による番号